

自立訓練事業等を活用した「学校から社会への移行期」における学びのプログラム及び支援について（メモ）

田中 良三

<成果＝問題提起>

1. 学校から社会への移行支援に、「学び」を中心においている。学び活動は、1日、午前一つ（90分）、午後一つ（90分）など、障害者一人一人の多様な個性や持ち味を引き出し生かすことができるように、大枠の時間設定をしている。
2. 学校で身に付けた資質・能力を、更に維持・開発するために、作業による技能の取得や就業体験・職場実習など職業に必要なスキルや、多様な生活体験・ボランティア活動などの社会体験によるライフスキルとともに、文化・教養・スポーツなど青年期にふさわしい多様な学習内容で構成している。
3. 子どもから大人への青年期教育として、障害青年たち自ら主体的・協働的に調べ・まとめ・発表し、自分たちで学習や交流を企画するなどのスキルを身につけさせる学習によって、人と関わる力（コミュニケーション能力や社会性）を身につけ、自ら判断・行動し自立できるように支援している。
4. 就業し自立した生活を送る基盤となる力を身につけるための多様な学び活動においては、ありのままの自分が出せ、安心して学びあうことができる仲間やスタッフのもとで、満更でもない自分を発見するなど自己肯定感や自信が持てるように取り組まれている。
5. 学校から社会への移行期の学び支援は、修了後の就労率も極めて高く、就労を継続し、また、就労後の相談活動などによって生活も安定するなど、十分な効果を発揮している。いっぽう、障害青年の学びのニーズが多様化し、「学校から社会への移行期」における学び期間は、当初の2年間から、3年間、4年間と長期化する傾向にある。

<課題＝求められる方策>

1. 自立訓練事業等を活用した「学校から社会への移行期」における学びを修了し、巣立っていった受講生に、その後の学びにどう繋いでいくのかということが問われている。各事業所が、修了生等を対象に公開講座のような形で学びの場を提供していくことや、また、地域の公的社会教育機関等と連携し、障害者生涯学習支援地域ネットワークづくりの中核的な担い手となることが求められている。そのためには、各事業所等が自ら修了後のプログラムの開発を行い実施体制のモデル等の普及に努力する必要がある。そのための専任スタッフが必要である。ここでは、実践家や専門家を地方公共団体や事業所等に派遣して、先進的な事例やノウハウを提供する支援体制を構築する必要がある。
2. 自立訓練事業等が、「学校から社会への移行期」における学びの場としての一定の要件を満たすことができるように、全国をブロック毎に、地方公共団体担当者向けの研修や事業者等向けの各種研修を実施する必要がある。

自立訓練事業等を活用した学びの場

- 近年、自立訓練事業等を活用して、学校から社会への移行期における学びの場を提供する活動が、社会福祉法人・NPO法人などを中心として、全国的に増加しつつある。

2008年	<和歌山県田辺市> ふたば福祉会 たなかの社「フォレスクール」
2009年	<和歌山県和歌山市> 社会福祉法人一麦会 はぐるま作業所「結い」
2010年	<和歌山県岩出市> きのかわ福祉会 自立訓練「シャイン」*
	<和歌山県有田市> ひまわり福祉会 ひまわり作業所「ラ・ポルテ」
2011年	<岡山県倉敷市> NPO法人かがやきの社「ジョイ」
	<兵庫県神戸市> 株式会社WAPコーポレーション「エコールKOBE」
	<北海道札幌市> 一般社団法人「チャレンジキャンパス さっぽろ」
	<和歌山県新宮市> 社会福祉法人熊野緑会 なぎのき作業所「ステップ」*
	<京都府丹後市> 社会福祉法人よさのうみ福祉会 多機能型支援センターろな*
2012年	<大阪府松原市> NPO法人大阪障害者支援センター「ぼぼろスクエア」
	<京都府京都市> NPO法人「プエルタ」
	<福岡県福岡市> 鞍手ゆたか福祉会「カレッジ福岡」**
	<和歌山県海南市> 社会福祉法人「一峰会」あすなろ作業所「ステップ」
	<岡山県倉敷市> NPO法人「いちご一会」
2013年	<奈良県奈良市> 一般社団法人みやこいち福祉会「ジョイアススクールつなぎ」
	<長崎県大村市> 鞍手ゆたか福祉会「カレッジながさき」**
	<和歌山県田辺市> やおき福祉会 発達障がいを対象
	<東京都新宿区> 鞍手ゆたか福祉会「カレッジ早稲田」**

2014年	<福岡県北九州市> 鞍手ゆたか福祉会「カレッジ北九州」**
	<大阪府岸和田市> いずみ野福祉会「シュレオーテ」
	<茨城県水戸市> 社会福祉法人木犀会「まなーる もちの木」
	<福岡県久留米市> 鞍手ゆたか福祉会「カレッジ久留米」**
	<大阪府伊丹市> (株)きると「スクールきると(伊丹校)」**
	<大阪府大阪市> (株)きると「スクールきると(梅田校)」**
	<滋賀県大津市> 社会福祉法人共生シンフォニー「くれおカレッジ」
	<滋賀県東近江市> 蒲生野会「プリズム・カレッジ」
	<山口県萩市> 合同会社Y・Y・H「ドリームスクール・はぎ」
	<大阪府大阪市> 社会福祉法人ライフサポート協会「障がい児者余暇生活支援センターじらふ・じらふ住之江」・「生活訓練センターつみき」
2015年	<大阪府大阪市> 一般社団法人エル・チャレンジ「L's collegeおおさか」
	<宮崎県宮崎市> NPO法人ライフカンパニー新富「チャレンジキャンパス」
	<広島県広島市> NPO法人まなびや「まなびキャンパスひろしま」
	<長野県諏訪市> NPO法人ちゃお「アートカレッジちゃお」
2016年	<茨城県つくば市> NPO法人茨城の専攻科を考える会「シャンティつくば」
	<茨城県古河市> (有)市民社会成熟研究所「デコベル」
2017年	<岡山県岡山市> 社会福祉法人旭川荘「カレッジ旭川荘」**
	<大阪府東大阪市> 社会福祉法人響福祉会「フリーキャンパスひびき」
	<岡山県総社市> NPO法人ライフデザイン「自立訓練パルジャ」
	<鹿児島県鹿児島市> 社会福祉法人麦の里「ユーススコラ鹿児島」
2018年	<福島県郡山市> NPO法人真・善・美「カレッジ郡山」
	<北海道札幌市厚別区> 一般社団法人えにし「まなびの杜みっけ」
	<宮城県仙台市> NPO法人「ラルゴ」

* 3年間 ** 4年間

- ・2019年4月 新潟市で株式会社ノザワコーポレーション「KINGOカレッジ」開設予定。
- ・社会福祉法人鞍手ゆたか福祉会による「カレッジ福岡」などは、2018年度より、株式会社ゆたかカレッジとして発足。

1) 学校（事業所名）：エコール KOBE	2) 学校長（施設長）名：河南 勝
3) 設置主体（法人名）：株式会社 WAP コーポレーション	
4) 設置年度：2011 年 4 月 1 日	
<p>5) 沿革</p> <p>2008 年 4 月 株式会社 WAP コーポレーション設立（岡本社長）福祉事業所の商品販売</p> <p>2010 年 5 月 和歌山の「学びの作業所」見学、神戸での開設を決意</p> <p>2010 年 8 月 福祉事業型「専攻科」エコール KOBE 開設の説明会</p> <p>2011 年 4 月 入学生 15 名でスタート 4 月 9 日開校記念式典</p> <p>2012 年 11 月 全国専攻科研究集会 in 神戸 開催</p> <p>2013 年 3 月 施設拡張（事務所、多目的教室、コンピューター室）</p> <p>2013 年 7 月 本「エコール KOBE の挑戦」発刊</p> <p>2014 年 5 月 就労継続 B 型事業所 福祉事業型「職業訓練校」カレッジ・アンコラージュを WAP コーポレーションが開設</p> <p>2014 年 9 月 アトリエ KOMA を駒ヶ林地域にオープン</p> <p>2016 年 3 月 エコール KOBE の定員を拡大（30 人から 40 人に）1 教室（サテライト教室）の増</p> <p>2017 年 3 月 エコール KOBE の定員をもとに戻す（30 人に）</p>	
<p>6) 趣旨・目的</p> <p>障害のある青年たちの学校（特別支援学校高等部、高校）卒業も「学びたい」という要求、保護者や関係者の「もう少しゆっくり、じっくり自分づくりをさせたい」という要求に応え、自立訓練事業を使った「学びの場」＝福祉事業型「専攻科」を設立。主体性を重んじ、仲間と一緒に、体験・経験を積んで青春を謳歌できる学園を目指している。2 年間の経験を活かして社会自立する土台づくりの場になればと考えている。</p>	
<p>7) 修了生数</p> <p>2011 年度～2017 年度の合計数（1 期生～6 期生） 合計 95 人</p>	
<p>8) 2018 年度在籍者数（7 期生、8 期生）</p> <p>1 年生 16 人 2 年生 15 人 合計 31 人</p>	
<p>9) 2018 年度プログラムと主な活動内容</p> <p>研究ゼミ・・・自分の興味・関心のあるテーマに基づいて、調べ、まとめ、発表する</p> <p>調理実習・・・話し合ってメニューを決め、班でレシピを調べ、食材を買って作り、決算までする</p> <p>野外活動・・・自分たちで行先を相談し、行き方、活動内容などを相談し決めて出かける</p> <p>選択講義・・・3 つの種目を選んで、前期の半年間続けて取り組み、後期は別の種目を選択する</p> <p>その他・・・自主講座、スポーツ、青春講座、創作活動、学生自治会、土曜日登校、放課後の活動（美術部・サッカー部の部活動、ランニング、自治会役員会）など多彩なプログラムや行事にも取り組む。</p> <p>2 年生は「働くこと」の学習や体験実習をふまえた進路指導にも取り組む。また、キャンパス交流やキャンプ、ふれあいまつりや学園祭などの大きな行事にも取り組み、卒業目には卒業旅行にも行く。</p>	
<p>10) 特徴</p> <p>毎年、定員に近い希望者があり、安定した学生の確保ができています。福祉の事業でありながら、教育にこだわり、学びの学園をつくっている。3 つの柱（主体的に学ぶ、豊かな体験、仲間とともに）を目標に学生は生き生きと学んでいる。近年、支援学校だけでなく高校等からの希望も増えてきている。注目度が高く、見学者が多く、また、新聞、TV、雑誌等で取り上げられることも多い。</p>	

社会福祉法人きのかわ福祉会

① 住所 和歌山県岩出市宮71-1 パストラルビル3階 C号 TEL 0736-61-0333					
② 理事長名 小畑 耕作 (大和大学教育学部 教授)					
③ 福祉型専攻科の概要					
1) 自立訓練事業所名: シャイン			2) 施設長名: 島田健司		
3) 設置主体 (法人名) 社会福祉法人 きのかわ福祉会 自立訓練事業					
4) 設置年度 2010年度 きのかわ共同作業所(多機能型)					
5) 沿革 2010年 きのかわ共同作業所 多機能型に自立訓練事業(シャイン)開設 2013年 単独事業「シャイン」移転して開設 2017年 希望者に3年目を設置。(自ら3年目の課題を表明する)					
6) 趣旨・目的 日常生活・社会生活能力を身につけると共に、近い将来、大人になるための文化や地域社会・人との関わり方を取得し、成人した大人に成長してから社会に出られるようにします。何ごとにも自信を持ち、意欲的・積極的に取り組める「自立した社会人」をめざします。 1.自己表現の力を高める 2.自分で考え自分で決める 3.生活する力をつける 4.自分を知る 5.自分らしく生きる進路を決める 6.余暇を豊かにする ※自己肯定感を高める					
7) 修了生数 (1) 2010年度～2017年度の合計数 44人 (2) 2017年度 6人					
8) 2018年度在籍者数 (1) 1年生 9人 (2) 2年生 5人 (3) 3年生 5人 合計19人					
9) 2018年度プログラムと主な活動内容					
	月	火	水	木	金
9:30～	朝 礼				
10:00～12:00	生活 (社会生活 プログラム)	生活 (食生活と調理)	教養 (芸術)	教養 (農園芸)	生活 (体操・ エアロビ)
12:00	昼食・休憩				
13:00～15:00	特別 (テーマ研究)	基礎 (コミュニケーション)	基礎 (経済と社会)	情報 (パソコン)	余暇 (図書館)/ 振り返り会
～15:30	清掃・終礼				
10) 特徴 ・外部講師によるプログラム(体操・芸術・手話・音楽) ・自力通所が基本、グループホームへ入所してシャインに通っている人 2人 ・自立訓練修了後、就労移行支援を経て一般就労した者 11人(離職した人 0人)他、就労継続A・B型に移行し、その後も継続し、日中はどの事業所に通っている(ひきこもり 0人)					
11) 課題 ・経営的には毎年8人以上利用者を確保しなければならない ・報酬は日割りのため、夏冬春休みが極めて短い					

<資料：その他①>

1) 事業所名：ジョイアスクールつなぎ（奈良市）		2) 施設長名：阪東悦子					
3) 設置主体（法人名） 一般社団法人 みやこいち福祉会							
4) 設置年度 2012年11月							
5) 沿革 2012年11月21日 一般社団法人みやこいち福祉会設立 2013年4月1日 ジョイアスクールつなぎ 第1回入学式挙行 2015年4月1日 相談新事業所指定「相談支援事業所 とびら」 2016年4月1日 就労移行新事業指定 「専攻科上級課程 かし・創造科」							
6) 趣旨・目的 ◇困ったことをどう解決するかを話し合う中で、解決できる力を育てます。 ◇あせらないでゆっくりと学び続けることで、自信と意欲がわいてきます。							
7) 修了生数 (1) 2014年度～2015年度の合計数 7人 (2) 2015年度 5人							
8) 2016年度在籍者数 (1) 1回生 8人 (2) 2回生 5人 (3) その他（かし・創造科） 6人							
9) 2016年度プログラムと主な活動内容							
		月	火	水	木	金	☆その他 ・調理実習 ・外出、社会見学 ・郵便局 ・銭湯学習 ・企画運営（ハイキング） ・夏合宿 ・近畿専攻科集会 ・全専研 ・テーマ研究 ・修了旅行
9:30～10:00		朝の会					
10:00～12:00	1	テーマミーティング	音楽/ヨガ	和太鼓 南中ソラン	情報 コミュニケーション	美術	
	2						
	3						
	4						
12:00～13:15		昼食・昼休み					
13:15～15:15	1	テーマミーティング	経済社会	総合学習 ゲストティーチャー	テーマミーティング	書道	
	2					英語	
	3					ふりかえり会	
	4						科学
15:15～15:30		掃除					
15:30～16:00		終わりの会					
10) 特徴 学生の発達・人格形成を大切にした上級の教育を目指しています。 支援員はつねに寄り添い、学びの補助につきます。 スペシャリストが揃った総合力のある体制です。							

<資料：その他②>

1) 事業所名：シュレオーテ（岸和田市）	2) 施設長名：清時忠吉
3) 設置主体（法人名）社会福祉法人いずみ野福祉会	
4) 設置年度 2014年4月1日	
5) 沿革 大阪障害児者を守る会岸和田支部の青年部会と社会福祉法人いずみ野福祉会が何度かの懇談会を重ねて卒業後の学びの場をつくることになった。希望者に障害の状況が重度の人が多く、初年度は岸和田障害者共同作業所の生活介護事業の1グループ（8名）としてスタート。2年目に新入生11名を迎え入れると同時に新築移転し、独立した生活介護事業（定員20名）の福祉事業型専攻科となった。	
6) 趣旨・目的 「生きる力をなかまとともに」というスローガンを掲げ、障害の重い青年も通うことのできる学びの場として役割を發揮したい。また、大きな目的として障害者権利条約第24条5項「締約国は、障害者が、差別なしに、かつ、他の者との平等を基礎として、一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯教育を享受することができることを確保する。このため、締約国は、合理的配慮が障害者に提供されることを確保する。」の実現を目指していきたい。	
7) 修了生数 (1) 2014年度～2015年度の合計数 1人 (2) 2015年度 1人	
8) 2016年度在籍者数 (1) 1年生2人 (2) 2年生11人 (3) その他(3年生)6人	
9) 2016年度プログラムと主な活動内容 ○基本学習プログラム 生活学習、食事づくり、課外活動、選択活動、シュレ農園、働くこと、話し合い、よさこい、梅だる太鼓など ○特別講師によるプログラム スポーツ、ダンス、音楽、体操、陶芸、健康教室、こころとからだの学習（性教育）、特別講座（身だしなみ講座、おしゃれ講座、手洗い講座など） ○卒業プログラム 将来ミーティング（進路指導）、自主活動（卒業発表）、アルバイト	
10) 特徴 知的障害の重い人が多い。19名中送迎利用者が18名。話し言葉、書き言葉でのコミュニケーションが困難な状況の人もある。また、自閉症スペクトラム障害の人が19名中6名であり視覚的な支援やシンプルな課題提示などの配慮が必要。全員で活動するプログラムは自由度の高さが求められる。車いすの人も3名いるので食事、排泄、移動などの介護度が高い。	

<資料：その他③>

1) 事業所名： 障害児(者)多機能型 生活支援センターろむ (丹後市)	2) 施設長名： 山本 優子
3) 設置主体 (法人名) 社会福祉法人よさのうみ福祉会	
4) 設置年度 2008年 (2011年度「学びの場きらり」開始)	
<p>5) 沿革</p> <p>どんなに障害の重い子どもにも等しく教育を保障する場として、1969年府立与謝の海養護学校が開校し、さらに卒業生の進路保障や労働・暮らしを保障するため、1975年から府北部各地に共同作業所(無認可)が開設しました。当法人は、こうした共同作業所の充実発展、労働生活施設をはじめとする総合的な福祉事業を推進する母体として、1980年12月に設立しました。</p> <p>現在は京都府北部の丹後障害保健福祉圏域(2市2町)に25か所の障害福祉事業所を運営し約700名(相談事業含む)の障害のある人たちの支援を進めています。「ろむ」のある京丹後市内ではみねやま作業所(峰山町内記)、ゆうゆう作業所(丹後町大山)、峰山共同作業所(峰山町杉谷)、長岡ホーム(峰山町長岡)、京丹後市障害者相談支援事業所 結(峰山町杉谷)、障害者就業・生活支援センターこまち(大宮町周枳)、そしてろむの7か所が事業を進めています。</p> <p><自立訓練事業(生活訓練)学びの場「きらり」実施までの経過></p> <p>全国で、障害を持つ人の「学びの場」についての実践が始まろうとした時、丹後の地でも障害があっても、「もっと学びたい、自分の将来についてもっとゆっくり考えたい」という本人の願い、「もっと色々な体験や経験ができる場所がほしい」という親の思い、「もう少しゆっくりとした学びの時間が必要なのではないか」と考える学校や福祉関係者などの願いがありました。そんな思いに背を押され、和歌山の「ふたば福祉会 たなかの杜」の学びの場「フォレスクール」の実践を参考にして、2011年に支援学校高等部卒業後の「学びの場きらり」が誕生しました。それ以降、全国の実践に学んだり、研修会で「レポート」を報告し意見交換を通じてカリキュラム(支援のプログラム)の見直しや再編を行い、日々の学習に活かしています。『きらり』の取り組みでは、初めての事や、これまでできなかったことにチャレンジできるよう、連帯感のある同年代の仲間集団の中で「一人ではやりにくいことでも仲間と一緒にならやってみよう」と思えるような環境作りを行っています。その中でスモールステップを踏みながら、小さなことに挑戦・達成することで、自己肯定感を育み、最終的には本人が主体的に考え行動できることを目指して支援を行っています。</p>	
<p>6) 趣旨・目的 (ろむ開設への思い)</p> <p>① 障害者、家族の願いやニーズを実現させる事業所 ② 地域に不足している事業(サービス)を実施する事業所 ③ 職員の専門性を発揮し、特化した実践を展開する事業所</p> <p><ろむの事業状況(2017年3月1日現在)></p> <p>(1)「生活介護事業」定員 12名(現員23名) (2)「生活訓練事業」定員 8名(現員7名) (3)「短期入所事業」定員 4名 1ヶ月15名程度利用 (4)「児童日中一時支援事業、障害者日中一時支援所業」*京丹後市委託事業 定員(児童)13名(障害者)10名</p>	
<p>7) 修了生数</p> <p>(1) 2011年度～2016年度の合計数 7人 (2) 2016年度 0人</p>	
<p>8) 2017年度在籍者数</p> <p>(1) 1年生 2人 (2) 2年生 3人 (3) その他(3年生) 2人</p>	
<p>9) 2017年度プログラムと主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活講座 生活全般に関わる学習 ・就労準備講座 月1回の資源回収、老人ホームでの喫茶販売、ショッピングセンター内での接客業務 ・余暇講座 外出や仲間の希望を聞いて行いたいことなど ・特別講座 科学講座、心とからだの学習、PC講座、美術講座、陶芸教室 	
<p>10) 特徴</p> <p>比較的障害の重たい仲間が利用し、3年間の学びの中、ゆっくりと自分を育てています。</p>	

学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議用資料

自立訓練（生活訓練）事業を活用した 「学びの作業所」のプログラムについて ～実態調査より～

日本福祉大学 子ども発達学部

伊藤 修毅

参考資料

伊藤修毅(2015)「自立訓練（生活訓練）事業所アンケート調査結果報告書，
日本福祉大学子ども発達学部，全28頁．

はじめに/調査目的

- 本資料は、「知的障害者継続教育の教育課程及びニーズに関する研究」(研究代表者:伊藤修毅/JSPS科研費25870880)の一環として行った「自立訓練(生活訓練)事業所アンケート」の成果の一部である。
- 障害者総合支援法上の制度「自立訓練(生活訓練)事業」を活用して、特別支援学校高等部卒業後の「専攻科」のような教育的機能を意識した学びの場(以下、「学びの作業所」)の活動内容・プログラムについて検討したもの。「学びの作業所」の場合「教育課程」という名称が馴染まない可能性もあるという点から、「プログラム」と呼ぶこととした。
- 「自立訓練(生活訓練)事業所アンケート」は、「知的障害者を対象とする自立訓練(生活訓練)事業所が行っている、継続教育機能(特別支援学校高等部修了後の学びの拡充を保障する機能)の現状を把握・分析すること」を目的に実施した。

調査方法

- 調査対象は2014年9月上旬時点でWAM NETに掲載されていた、主たる対象者に知的障害者を含む通所型自立訓練(生活訓練)事業所1,158件。
- 2014年10月1日を調査基準日として郵送方式でアンケートを実施。回答は、事業所の管理者もしくはサービス管理責任者、または、法人の当該事業の担当者に記入していただくよう依頼した。有効回答数は449件で、有効回収率は38.8%。
- そのうち、「『「学びの作業所』『福祉型専攻科』などに該当する事業所の方々のみご回答をお願いします」した設問に回答いただいた事業所は23事業所。
- プログラムについては、まず、「貴事業所で行っている活動内容・プログラムを以下の(1)～(6)の6つの領域に分類した場合、標準的な1週間の中で、それぞれ、何時間程度実施していますか？週あたりのおよその時間数をお答えください」という設問を置いた。
- (1)～(6)は、青年期教育の発展の中で考えられた「5領域構想」の各領域(くらし・労働・余暇・教養・研究ゼミ)に「その他」を加えて6領域としたものである。
- 続けて、各領域に「分類した活動の具体例をいくつか教えてください」という問いを置き、それぞれの領域に属する具体的な活動例を記述していただいた。
- さらに、活動例として記述していただいた活動のうち、「特に重要視している活動」を示していただいた。

結果①

「学びの作業所」のプログラムの構成比

回答事業所の「標準的な1週間」における活動内容の比率(N=23)

領域名	領域の特徴	平均	最大値	最小値
(1)くらし	人とのかかわり、社会生活や家庭生活を豊かにすることを主たる目的とした活動	28.9%	65.2%	8.3%
(2)労働	働くとはどういうことか、仕事探し、仕事の体験など、労働生活を豊かにすることを主たる目的とした活動	22.1%	56.0%	0.0%
(3)余暇	生涯スポーツや趣味の活動など、余暇を豊かに過ごすことを主たる目的とした活動	18.6%	50.0%	5.6%
(4)教養	英語、法律・制度など、さまざまな教養を身に付けることを主たる目的とした活動	12.7%	40.0%	0.0%
(5)研究ゼミ	自分でテーマを考え、調べた、まとめ、発表することを主たる目的とした活動	5.4%	13.0%	0.0%
(6)その他	(1)～(5)に分類することが困難な活動	12.2%	40.0%	0.0%

結果②

各領域における具体的な活動内容例

領域名	活動内容例
(1)くらし	コミュニケーション能力育成(挨拶、聴く力、話す力など)、調理計画・実習、日常生活でのマナー、体調管理・身体力向上、金銭管理、家事(食器洗い、掃除、裁縫、洗濯など)、ソーシャルスキルトレーニング、大学生や他施設などとの交流、ADLの向上
(2)労働	レザークラフト・パソコン・ハーブなどからの就労選択講義、仕事の種類を学ぶ、ビジネスマナーの学習、オフィスワークの基礎、作業を通した「ほう・れん・そう」や協調性の学び、就労体験、就職活動(履歴書の作成、職業理解など)、働くことの基礎知識、模擬喫茶店の開店
(3)余暇	音楽、美術、パソコンなどからの余暇選択講義、野外活動
(4)教養	国語(作文、詩、劇、しりとり、音読など)、算数、漢字などのプリント学習、PC学習、調理実習、生活の基盤となる基礎的能力をつける学習(対人マナー、性教育など)、生活リズムや健康についての話し合い
(5)研究ゼミ	興味・関心のあることをテーマに調べ、まとめ、発表する

結果③

各事業所の系統別構成比

- 学校専攻科との比較検討の便宜上、

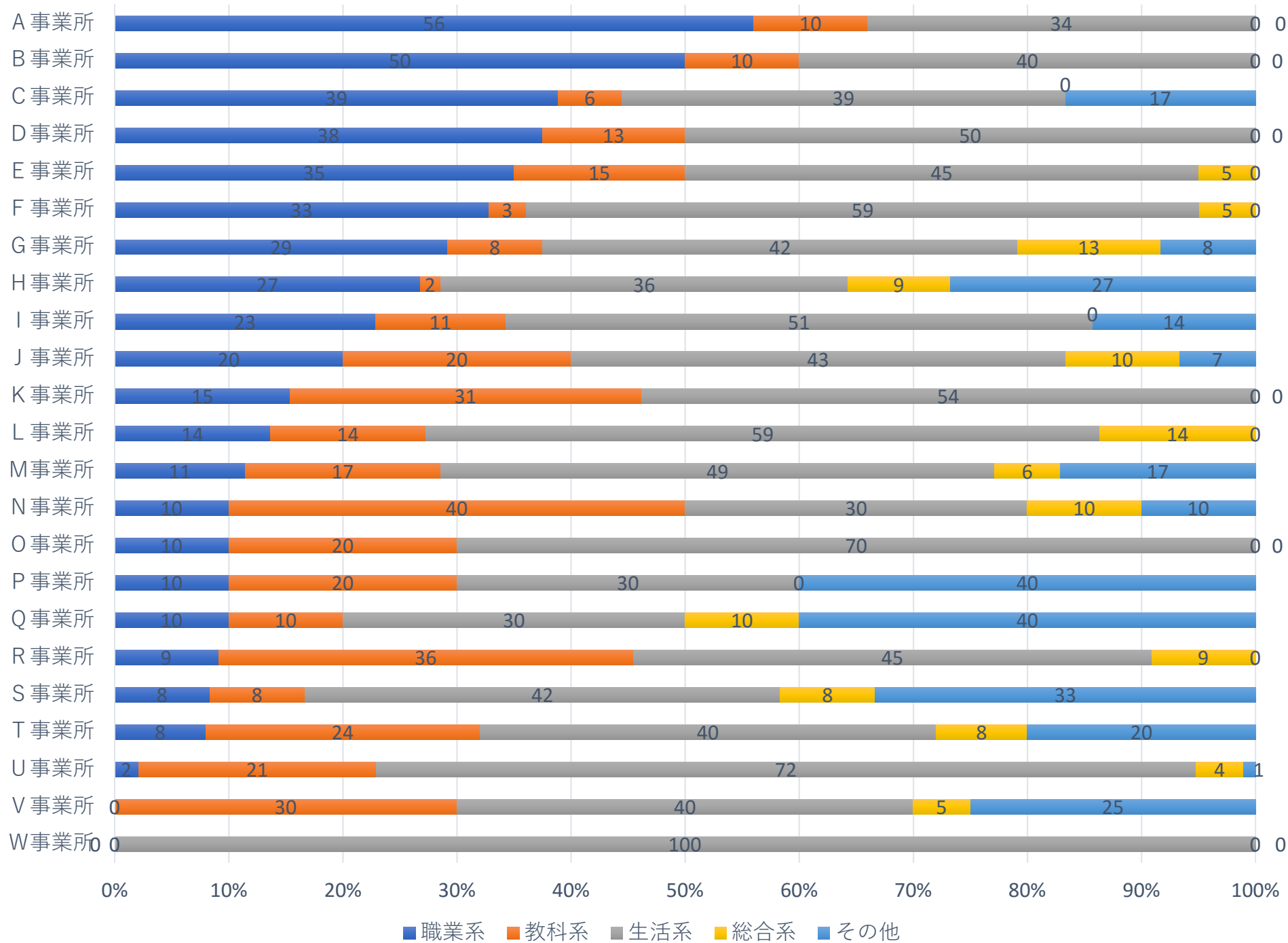
職業系:(2)労働

教科系:(4)教養

生活系:(1)くらし+(3)余暇

総合系:(5)研究ゼミ

と4系統にまとめた上で、各事業所の構成比をグラフにした。



まとめ①プログラムの中心

☆各事業所の最も構成比の高い系統をプログラムの「中心」と表現すると・・・

A・B:職業教育中心。いずれも、職業系の比率がプログラムの半分以上になっており、職業教育に偏重していると見ることができる。

C:職業／生活バランス型。職業系と同じ時間の生活系が実施されている。

N:教科教育中心。ただし、教科系40%、生活系30%、他の系統も10%ずつ実施しており、特定の系統への偏重のないバランスのとれたプログラム。

P・Q:その他中心。「その他」が40%で最も高い比率となっているが、職業系、教科系、生活系が10～30%あり、バランスのとれたプログラム。

他の17事業所:生活教育中心。H事業所(生活系:36%)のように相対的に一番多いというだけの事業所もあるが、O事業所(生活系:70%)、U事業所(生活系:72%)、W事業所(生活系:100%)と、かなり極端に生活系に偏っているプログラムもある。

まとめ②構成比のばらつき

☆結果①で示した構成比を、結果③の分類で再検討すると…

- 職業系:最小値 0%、最大値 56%、平均値20%、標準偏差15.4
- 教科系:最小値 0%、最大値 36%、平均値16%、標準偏差10.5
- 生活系:最小値30%、最大値100%、平均値48%、標準偏差15.8

⇒全体的な構成比としては、職業系・教科系がやや低く、生活系がやや高いと言えるが、職業系・生活系は事業所間のバラツキが大きく、教科系にはそれほどのバラツキがないと見ることができる。

⇒つまり、教科系は必ずしも長時間ではないものの、多くの事業所が一定量取り入れている。職業系は少なめ、生活系は多めであるが、職業系・生活系は、事業所によってその構成比は大きく異なる。